

学校名	只見町立朝日小学校
授業者	松永 真紀

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

大単元 たのしいあき いっぱい	小単元 こうていのあきをみつけよう
-----------------	-------------------

### 1-2. 学年

第1学年
------

### 1-3. 教科

生活科
-----

### 1-4. 単元の概要

<p>本単元は、学習指導要領（5）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする」及び（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を作ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする」と深く関わっている。葉の色が変わったり、木の実が落ちてきたりする秋は、季節の特徴をとらえやすい。これまでに、夏の校庭や公園に出かけたり、地域の方に教えていただいたりして、身近な自然の様子や自然物を生かした遊びを経験してきた児童が、本単元で、校庭や夏と同じ公園に出かけるなど、身近な自然に繰り返し関わることにより、秋の自然の特徴や四季の変化に気付くことができると考える。また、木の実や落ち葉などは、子供たちが興味をもちやすいものであり、主体的に学びに向かうことができると考える。さらに、単元を通して身近な自然に関わることで、朝日地区の自然の豊かさ、よさにも気付き、只見愛を育成することができる単元である。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

<p>単元のねらい</p> <p>（1）児童の実態</p> <p>男子8名、女子3名の学級である。日頃から休み時間になると校庭に行き、元気に活動している児童が多い。特に男子は、生き物に興味をもっている児童が多く、校庭のあちこちで生き物探しを楽しんでいる姿が多く見られる。生き物についての知識も豊富で、1学期の「なつがやってきた」の学習でも、夏の校庭や公園で意欲的に活動しさまざまな生き物を見付けることができた。また、身の回りにある草花を使った遊びを地域の方に教えていただいたことにより、身近な草花も遊びに取り入れることができることに気付くことができた。しかし、虫や爬虫類には興味関心が高く、目も向きやすいが、草花や木については教師が意図的に声掛けをしないと、なかなか目を向けることが難しかった。また、子供たちに「秋といえば」という質問をした際、トンボ、柿、栗、落ち葉などの答えが出され、秋の様子を具体的にイメージできる児童もいたが、一方で、なかなかイメージできない子供やチューリップというような答えもあり、自然の捉えについては個</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

人差が大きいと言える。

## (2) 指導観

本単元導入では、「今の季節は？」という問いかけをし、秋について知っていることなどを発表し合うことで秋のイメージを膨らませ、本当に秋になっているのか確かめたい、秋を探したいという意欲をもって活動に入ることができるようにする。そうすることで、秋をイメージすることが難しかった児童も、どのようなものを探せばよいか明瞭になり、主体的に活動することができるようになる。また、目に見える物だけではなく、目に見えない音や手触り、温度、においなどにも目を向けることができるように教師が意図的に声をかけるようにする。さらに、学区内にある身近な森にも目を向けさせ、実際に秋の森に入り、さまざまな自然物に関わる体験をさせていきたい。単元の終末には、保育所の年長組を招待し子供たちが作ったおもちゃで一緒に遊ぶ場を設定することにより、相手意識、目的意識を明確にもたせ、子供たちが主体的に活動することができるようにしていく。

本時では、前時に見つけた校庭の秋を紹介し合い、秋の校庭マップを作成し、気付きを共有できるようにする。また、前時までの活動で教師が見取った子供の気付きを意図的に紹介することにより、より多様な気付きを共有することができるようにしたい。さらに、夏の校庭マップと比較することにより、秋の自然の特徴や季節の変化に気付くことができるようにする。終末では、どの季節でも身の回りには豊かな自然があること、多くの動植物が生きていることを実感させるとともに、それが学校（朝日）のよさでもあることに気付かせていきたい。

### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

#### <コラボレーション力>

秋の校庭の自然の様子と、夏の校庭の自然の様子との違いに気付いている。

#### <問題を発見する力・解決する力>


幼児期や日常の景観を思い起こして、秋のしぜんの特徴を探している。


#### <コミュニケーション力>

自分が見つけた秋を紹介することができる。

自分たちで見つけた秋の自然物を使って遊ぶものを作り、その遊び方を年長組にわかりやすく伝えることができる。

### 1-7. 単元の展開（全25時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 2 3	<p>○ 校庭で虫や動植物を観察したり、自然物を使って遊んだりする。 (2)</p> <p>○ 夏の校庭の自然の様子との違いに気づく。(本時) (1)</p> 	<p>秋の校庭の自然の様子と、夏の校庭の自然の様子との違いに気付いている。 (知識及び技能の基礎)</p> <p>&lt;コラボレーション力&gt;</p> <p>幼児期や日常の景観を思い起こして、秋の自然の特徴を探している。 (思考力・判断力・表現力の基礎)</p> <p>&lt;問題を発見する力・解決する力&gt;</p>

4 5	○ 公園で遊んだり、観察したりしながら、夏の公園の自然の様子との違いに気付く。 (2)	身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付いている。 (知識及び技能の基礎) 秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違いを探している。 (思考力・判断力・表現力の基礎)
6 7 8 9	○ 下福井観察の森に出かけ、秋の自然物を見つけたり、自然物を使った遊びを自分たちで工夫したりする。 (4)	秋の自然物を使うとどんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使うものを選んでいる。 (思考力・判断力・表現力の基礎) 秋の自然と関わりたいという思いをもち、試行錯誤しながら、秋の自然を生かした遊びを楽しもうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)
10	○ 秋の自然の中で活動したことを振り返り、友達と紹介し合う。 (1)	季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わること気付いている。 (知識及び技能の基礎) 季節を生かして遊ぶことに楽しさと手ごたえを感じ、これからも季節の遊びを楽しもうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)
11 12 13 14	○ 畑で育てているサツマイモや、校庭の栗の実を収穫する。 (2) ○ 調理し、秋の実りを実感する。 (2)	栽培してきた農作物や自然物を収穫して調理することで、秋の恵みを生かして生活していることに気付いている。 (知識及び技能の基礎)
15 ～ 21	○ 秋の自然物を使ったおもちゃをつくる。 (4) ○ 年長組を招待する準備をする。 (3)	さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選びおもちゃを作っている。(思考力・判断力・表現力の基礎) 年長組との関わることのよさや楽しさに気付いている。 (知識及び技能の基礎)
23 24 25	○ 年長組を招待し、自分が作ったおもちゃと一緒に遊びを楽しんだり、学校のことを教えたりする。(3) 	遊びを作り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。 (知識及び技能の基礎) 年長組に喜んでもらったことを実感し、これからも関わっていこうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 25 時間中の 3 時間目

2-2. 本時の目標

校庭で見つけた秋を紹介し合いながら、夏の校庭の様子との違いに気付くことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 本時の学習内容をめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なつのこうていと、どんなところがか わったのかな。</p> </div> <p>2 校庭で見つけた秋を発表し合い、マップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 虫 (バッタ・どんぼなど)</li> <li>・ 草花 (落ち葉・紅葉)</li> <li>・ 木の実 (くるみ・とちの実・栗)</li> </ul> <p>3 夏の校庭マップとの違いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つきやまの木の葉が黄色になっていた。</li> <li>・ とちの実や胡桃、栗の実ができていた。</li> <li>・ くつつく実がある。</li> <li>・ シロツメクサやオレンジの花がない。</li> <li>・ トンボやバッタはどっちにもいたよ。 でも大きさや種類が違う。</li> <li>・ 秋は涼しい。</li> </ul> <p>4 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なつとちがうところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ むし・大きさ、しゅるいがちがう。</li> <li>・ くさ木・いろがかわっている。 はがおちる。 みができている。 しゅるいがちがう。</li> <li>・ すずしくなった。</li> </ul> </div>	<p>○ 前時の学習を想起させやすくするために、校庭での活動の様子を提示する。</p> <p>※ 見つけた秋を紹介し合い、貼る場所を子供たちで話し合いながら、マップを完成させていくようにする。</p> <p>※ 教師が前時に見取った気付きも紹介し、深められるようにする。</p> <p>○ マップの他に写真や児童の観察カードを提示し、夏の様子を思い出させやすくする。</p> <p>※ 夏の校庭マップと比較することにより、季節の違いに気付くことができるようにする。また、夏にはあつて秋にはない、夏にはなくて秋にあるなどの視点もあたえ、話し合いが深まるようにする。</p> <p>※ 気温などの違いが子供たちからでない場合は、教師から夏の活動の様子を想起させるなどして気付くことができるようにする。</p> <p>※ 季節によって変化があることをおさえるとともに、どちらにも多くの生き物や草花がありそれが地域のよさであることにも気づくことができるようにする。</p> <p>◇ 季節による自然の違いや特徴に気付くことができたか。(発言・観察)</p> <p style="text-align: right;">〈コラボレーション力〉</p>

### 3. 今回の活動の自己評価

- 実物の提示があったことで、どんなものを見つけたのかを想起しやすかった。また、前時での様子を教師が意図的に紹介していくことで、より多くの秋に気付くことができた。
- 写真を入れたり色を工夫したりして視覚的に比較しやすいマップを作成したことにより、夏との違いに気付くことができた。
- 子供たちが前時まで多くの体験を積み重ねてきていることが、「虫いっぱい」「コロコロ変わる」「自然大好き」などの発言につながっていた。
- 単元のはじめには、イメージマップを子供たちと一緒に作成し、本当にそうなの？と問いかけることで、子供たちをゆきさぶり、実際に確かめてみたい、行ってみたいというような意欲を持たせることができた。
- 保育所の年長組を招待するという目的意識や相手意識を明確にもたせたことで、こんなことをやってみたい、こんなものを準備してあげたいなど主体的に準備に取り組むことができた。
- 単元全体の流れを子供たちに知らせることで、秋探しをしている時にもこれは〇〇に使えるそうだ、〇〇もできそうなど、見通しをもって活動する姿も見られた。
- 年長組がわかるようにと、グループごとにルールを相談したり、紙に書いて掲示したりすることができた。当日も、年長組に楽しんでもらおうと子供たちが主体となり、ルールを説明したり、一緒に活動したりすることができた。

### 4. 今後の課題

- 学習の基本となるしっかり聴くことがまだ身についていないので、話し合いがなかなか深まらなかった。繰り返し指導していく必要がある。
- 良い気付きがたくさん出されたが、全体でより広げたり、深めたりすることが難しかった。良い気付きを共有できる工夫があるとよかった。
- 児童の実態を考えると、動画を見せるなどICTを有効活用できるとよかった。
- 地域のよさに気付くところまでにはいかなかったので、今後さらに様々な体験を通して気付くことができるようにしたい。
- よりよい学びのためには、日ごろからの継続した学習訓練が大切である。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・ 身近な自然に繰り返し関わるのが児童の主体的な学びにつながっていく。年間を通して関わるができる場所を教師が知っておく必要がある。